

# 複合動詞「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」の 使い分けに関する覚え書き

—日本語母語話者と日本語学習者の比較—

廖 紋淑

キーワード 複合動詞、終了、「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」

## 1. はじめに

本研究は日本語の「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」の使い分けについて論じたものである。これら3つの表現はいずれも「終了」を表すという点で共通する。本研究ではこの3つの表現の違いを明らかにするため、コーパスとアンケートを利用して前項動詞の違いを分析する。その結果、日本語学習者は日本語母語話者とは違った使用で「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」を理解していることが明らかとなった。本研究ではこうした日本語母語話者と日本語学習者の使い分けの違いについて分析する。

## 2. 先行研究

寺村(1984)は「～オワル、～オエルは、生きものの意志的な動作に、～ヤムは自然現象についてというのが典型的な用法とあってよいようである」と述べた上で、「～終わる」は「大体他動詞に限られているよう」で、「～終える」は「結合力がさらに弱い」、「とくに何か目標をもってやる仕事の場合以外は、使うと不自然になる」と述べている。しかし、他動詞でも(1)の「持つ」や(2)の「待つ」のように、「～終わる」と共起しにくいものもある。

- (1) \*太郎がカバンを持ち終わった。
- (2) \*太郎が花子を待ち終わった。

姫野(1999)は「終了」を表す「～切る」を「完遂や完了を意味する後項動詞」として、類義語の「～ぬく」、「～とおす」と比較して、次のように述べて

いる。

「～切る」は、本動詞の「切る」の意味で用いられる語彙的複合動詞の場合と、接辞的に統語的複合動詞として用いられる場合に大別される。後者は、さらに二つのグループに分かれる。すなわち、継続動詞について行為が完遂することを表すものと、瞬間動詞について極度の状態に達することを表すものである。」(姫野1999: 175)

これに対して杉村 (2008) は「～切る」を次の3つに分類した。

「前項動詞が動作動詞の場合は「食べ切る」、「走り切る」のように「行為の完遂」を表し、変化動詞の場合は「諦め切る」、「治り切る」のように「変化の達成」を表し、状態動詞の場合は「疲れ切る」、「冷え切る」のように「極限状態」を表す」(杉村2008: 72)

しかし、「分かり切る」は言えるが、「知り切る」は言えないことについては説明されていない。

由本 (2005) は「～尽くす」について、「対象をなくす」という意味で、V1 が表す事象の結果として生じる事態を表すと述べている。例えば(3)の「埋め尽くした」は「雪が田畑を埋めた(埋めるように降った)結果、(雪がかぶさっていない)田畑がなくなった」状態を表す。そうすると、(4)のように「知り尽くした」は「彼女のことを知った結果、知らないことがなくなった」と説明できるのに対し、「知る」に近い意味を表す「分かる」は(5)のように非文となる。このような例についての説明が必要である。

- (3) 田や畑を埋め尽くした雪。(由本2005: 272の例 (85a))
- (4) 彼女のことを知り尽くした。
- (5) \*彼女のことが分かり尽くした。

### 3. 前項動詞の使用頻度

本研究ではインターネットのWWWページをコーパスとして利用した。この方法に対しては、「データの保存性が悪い」、「不自然な表現がまじる」などの批判がある。しかし、杉村 (2005) にも論じられているように、このような問題

点に注意すれば、言語研究に有用なコーパスとして活用できると考えられる。以下、本研究のWeb検索について示す。

検索エンジン:「Google」(<http://www.google.co.jp/>) のフレーズ検索を使用する。  
 検索対象: 883語の動詞と下記複合動詞の結合を検索した。<sup>1</sup>

(2006. 7. 1~2006. 8. 19検索)

表記: 「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」は漢字表記のみ検索した。それぞれ「～する」、「～した」、「～します」、「～しました」、「～して」、「～しなかった」、「～しない」、「～しません」形のヒット数を調べた。以下の表の数字はそのヒット数を合計した数である。

この883語の動詞を工藤(1995)の動詞分類に基づいて分類した。その結果は表1の通りである。表1は883語から特徴的なものを抜粋したものである。表1を見ると、動詞によって各複合動詞との共起のしやすさに違いのあることが分かる。

表1 WWWページ検索による調査結果(ヒット数)

動詞分類	V1	～終わる	～切る	～尽くす
外的運動動詞	読む	2,690,000	234,000	39,300
	食べる	1,920,000	322,000	294,000
	書く	23,200	5,870	3,310
	聞く	7,200	48	173
	話す	4,120	217	93
	持つ	50	12,200	10
	待つ	10	4,690	21
	眠る	7	2	5
	治る	11	846	0
	澄む	1	354,000	0
曲がる	1,410	4,450	0	
内的情態動詞 思考動詞	思う	64	100,000	37
	考える	178	240	1,200
	分かる	9	4,310	14
	知る	3	9	113,800
	信じる	5	2,610	20
	祈る	138	14	6

感情動詞	楽しむ	151	173	2,501
	愛する	19	616	2,980
	悩む	0	12	83
	諦める	69	39,700	10
	困る	1	214	2
	驚く	36	2	2
	喜ぶ	9	268	2
	迷う	0	40	12
	心配する	4	0	1
	飽きる	1	19	15
知覚動詞	憧れる	9	2	5
	聞こえる	10	0	3
感覚動詞	匂う	5	0	0
	疲れる	0	62,600	0
	喉が渇く	0	78	0
静態動詞	腹が減る	0	8	0
	存在する	0	19	1
	有る	1	0	2
	居る	0	0	0

表1を見ると、同じ外的運動動詞でも、「読む」、「食べる」、「書く」は「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」のいずれも共起しやすい一方、「聞く」、「話す」の場合は「～終わる」に集中しており、「持つ」、「待つ」の場合は「～切る」に集中していることが分かる。また、思考動詞の場合は、「祈る」は「～終わる」と共起しやすいのに対して、「思う」、「分かる」、「信じる」は「～切る」に集中しており、「知る」は「～尽くす」に集中している。感情動詞の場合は全体的に「～終わる」と共起しにくい、「諦める」、「困る」は「～切る」に集中しており、「楽しむ」、「愛する」は「～尽くす」に集中している。感覚動詞の場合は、「喉が渇く」、「腹が減る」はいずれも「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」と共起しにくい、「疲れる」は「～切る」に集中している。知覚動詞、静態動詞は「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」のいずれとも共起しにくい。

#### 4. 文法性判断テスト

日本語母語話者を対象に文法性判断のアンケート調査を行った。さらに、日本語学習者にもアンケート調査を行い、両者の「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」に対する使い分け意識の違いについての分析を試みた。アンケートに際しては下のような質問紙を用い、被験者にそれぞれ100語の表現について文法性判断を行った。選定した動詞の内訳は以下の通りである。<sup>2</sup>

- ① 「外的運動動詞」読む、食べる、計算する、言う、話す、見る、使う、書く、調べる、歌う、作る、研究する、走る、議論する、聞く、描く、吸う、登る、泳ぐ、投げる、埋める、掘る、売る、語る、泣く、出す、燃やす、咲く、散る、締める、逃げる、攻める、守る、行く、曲がる、住む、寝る、出る、待つ、覆う、眠る、治る、冷える、立つ、持つ、暮らす、生活する、来る、澄む、腐る、生かす、笑う、頼る、目覚める
- ② 「内的情態動詞」
- ・ 「思考動詞」考える、祈る、願う、思う、信じる、知る、望む、分かる。
  - ・ 「感情動詞」我慢する、悩む、心配する、後悔する、耐える、びっくりする、怒る、楽しむ、疑う、怯える、憎む、迷う、がっかりする、惚れる、諦める、驚く、喜ぶ、困る、疲れる、安心する、腹が立つ、懂れる、飽きる、気がつく、失望する、気になる。
  - ・ 「知覚動詞」聞こえる、見える。
  - ・ 「感覚動詞」ドキドキする、震える、腹が減る、喉が渇く。
- ③ 「静態動詞」(本が) 有る、居る、存在する

次の例文が言えると思う場合は○を、言えない場合は×をつけてください。

食べ終わった	( )	気になり終わった	( )
読み終わった	( )	聞こえ終わった	( )
笑い終わった	( )	気がつき終わった	( )
分かり終わった	( )	考え終わった	( )
知り終わった	( )	がっかりし終わった	( )

- (1) 日本語母語話者：

名古屋大学1年生 (2007. 11. 16-30実施)

(「～終わった」63人、「～切った」65人、「～尽くした」64人)

## (2) 日本語学習者（中国語母語話者）：

南台科技大学応用日語系修士課程1年生17人（2008. 2. 22-28実施）

大葉大学応用日語系4年生14人（2008. 3. 3-14実施）

アンケート結果から母語話者の許容度が高い順に並べると後の表2、3、4のようになる。表2、3、4を見ると、母語話者の場合は概ねコーパスからの出現数が多いものほど許容度が高くなることが分かる。これに対し、学習者は母語話者の許容度と違った使用のしかたをしていることが明らかとなった。

## 5. 母語話者の使い分け意識

### 5-1 「～終わる」

まず、日本語母語話者のアンケート結果を考察していく。下の表2を見ると、「～終わる」は同じ外的運動動詞でも「読む」、「食べる」、「言う」、「話す」などと共起しやすく、「寝る」、「待つ」、「眠る」、「立つ」、「持つ」とは共起しにくいことが分かる。「食べる」と「待つ」は同じ継続動詞であるが、「食べ終わる」が言えるのに対して、「待ち終わる」は言いにくい。両者の違いは、「食べる」の場合は食べ物が全て無くなった時点で「食べた！」と言えるのに対し、「待つ」の場合は誰かと会って待つのをやめる時点で「待った！」と言えないという点にある。その点で両者はアスペクト的な違いがある。これが「～終わる」との共起と関係するものと考えられる。

また、同じ思考動詞でも「思い終わった」、「信じ終わった」は8%前後の許容度しか示されないのに対し、「考え終わった」、「祈り終わった」は母語話者の許容度が75%以上になる。「思う」、「信じる」は心に自然に生じる静的な性質のものであるのに対し、「考える」は頭を動かす意味、「祈る」は心の中で願い頼むという意味の動的な特徴を持つため、外的運動動詞と性質が類似している。また、「考える」や「祈る」は主体の意志的コントロールによって制御できる動作である。したがって、「考えよう」、「祈ろう」という形で主体の意志を表すことができる。ゆえに「考える」、「祈る」は心の動きを表すという点では内的な動詞であるが、主体の意志的コントロールが働くという点で「食べる」、「書く」のような外的運動動詞に近い性質を表すと考えられる（廖2005参照）。このことから、いわゆる思考動詞のような人間の内的事象をとらえる動詞であっても「～終わる」の形が使えるものは、主体の意志的コントロールが働くという点で「食べる」、「書く」のような外的運動動詞に近い性質を有するため「～終わる」

」と共起しやすいのだと考えられる。

「思う」、「信じる」、「知る」、「分かる」が「～終わる」と共起しないのは「思った」、「信じた」、「知った」、「分かった」瞬間から「思っている」、「信じている」、「知っている」、「分かっている」のようにその状態が継続するため、「～終わる」と共起しないと考えられる。一方、「食べた」、「考えた」はその瞬間にその行為が終了する。感情動詞の「悩む」、「諦める」も同様の理由で「～終わる」と共起しにくいと考えられる。

表2 「～終わった」の許容度（母語話者順）

順位	V1	日本語者	学習者	順位	V1	日本語者	学習者	順位	V1	日本語者	学習者	順位	V1	日本語者	学習者
1	読む	100%	97%	26	語る	75%	88%	51	待つ	19%	63%	76	来る	6%	13%
2	食べる	100%	91%	27	泣く	75%	84%	52	願う	19%	22%	77	澄む	5%	31%
3	計算する	100%	91%	28	出す	75%	53%	53	楽しむ	17%	22%	78	疲れる	5%	28%
4	言う	98%	97%	29	燃やす	68%	81%	54	覆う	16%	53%	79	召し上がる	5%	75%
5	話す	98%	94%	30	咲く	57%	81%	55	眠る	14%	44%	80	困る	5%	34%
6	見る	98%	78%	31	散る	49%	84%	56	疑う	14%	44%	81	腹が減る	5%	25%
7	使う	97%	97%	32	締める	43%	53%	57	怯える	14%	34%	82	安心する	5%	13%
8	書く	97%	94%	33	逃げる	43%	53%	58	治る	13%	56%	83	腹が立つ	3%	34%
9	調べる	95%	94%	34	我慢する	40%	31%	59	憎む	13%	31%	84	憧れる	3%	34%
10	歌う	95%	94%	35	悩む	37%	59%	60	聞こえる	11%	34%	85	飽きる	3%	28%
11	作る	95%	94%	36	攻める	37%	69%	61	冷える	11%	28%	86	気がつく	3%	25%
12	研究する	94%	88%	37	守る	37%	59%	62	立つ	10%	44%	87	腐る	3%	19%
13	走る	94%	88%	38	笑う	30%	50%	63	迷う	10%	41%	88	失望する	3%	9%
14	議論する	92%	78%	39	どきどきする	30%	34%	64	持つ	10%	38%	89	知る	3%	9%
15	聞く	90%	91%	40	震える	29%	72%	65	暮らす	10%	28%	90	喉が渴く	2%	28%
16	描く	89%	94%	41	行く	27%	34%	66	生活する	10%	13%	91	おっしゃる	2%	72%
17	吸う	87%	91%	42	心配する	27%	28%	67	思う	8%	53%	92	頼る	2%	38%
18	登る	86%	72%	43	後悔する	27%	13%	68	がっかりする	8%	25%	93	見える	2%	28%
19	埋める	84%	72%	44	耐える	25%	59%	69	居る	8%	22%	94	望む	0%	41%
20	泳ぐ	84%	88%	45	曲がる	25%	44%	70	信じる	8%	6%	95	気になる	0%	25%
21	投げる	84%	78%	46	びっくりする	24%	6%	71	惚れる	6%	53%	96	生かす	0%	16%
22	掘る	79%	81%	47	怒る	22%	56%	72	諦める	6%	31%	97	いらっしゃる	0%	16%
23	考える	79%	81%	48	住む	21%	38%	73	驚く	6%	31%	98	目覚める	0%	13%
24	売る	76%	88%	49	寝る	21%	34%	74	喜ぶ	6%	25%	99	分かる	0%	9%
25	折る	76%	63%	50	出る	21%	31%	75	存在する	6%	13%	100	本が有る	0%	13%

## 5-2 「～切る」

下の表3を見ると、「～切る」は同じ外的運動動詞でも「読む」、「食べる」などと共起しやすく、「眠る」、「立つ」とは共起しにくいことが分かる。「～切る」

は「ある行為や変化の限界」という意味であり、「ご飯を食べ切った」は「ご飯を消費すること」の達成を表す。従って、「食べ切った」瞬間から「食べていない」のようにその状態が終了する。一方、「眠る」、「立つ」は「眠った」、「立った」という瞬間からその状態が継続するため、事態の達成を表す「～切る」と共起しないと考えられる。

また、「分かる」、「信じる」などの思考動詞と共起する場合は許容度が高くなるが、「知る」などの思考動詞と共起する場合は許容度が低くなる。このように、同じ思考動詞「分かる」、「知る」でも「分かり切った」は80%前後の許容度を示すのに対し、「知り切った」5%しか示さない。「分かる」は頭の中にすでに存在しているある物事についての認識、理解、意味をさらに深めて、詳細に分析して実際の内容が明らかになることを表す。「彼女のことが分かる」は彼女について分かり始めてから完全に分かるまでの変化過程を要する。「分かり始めた」瞬間はまだ「分かっている」とは言えない。彼女のことを100パーセント理解した時点で「分かっている」という状態になる。この極限に達した状態を「分かり切る」と言う。これに対して、「知る」は頭の中に存在していない事柄を意志の力・経験や調査などで手に入れるという意味である。「分かる」と「知る」の大きな違いは、「分かる」はある知識を得るのに時間的な幅を持つが、「知る」はある情報が頭にいれば、その瞬間に知ったことになるという点である。従って、「彼女のことを知る」は、名前、年齢、経歴、性格など様々な情報を知る場合、一見時間的な幅があるように見えるが、実は一つ一つの知識は瞬間的に得られていると考えられる。つまり、「知る」はある状況に「気付く」の意味で、瞬間的に行われるものである。そうすると、「～切る」はある行為や変化の限界を表す表現であり、限界に達するまでの時間的長さが必要であるため、「知る」とは共起しにくいのだと考えられる。感情動詞の「気がつく」、「飽きる」も同様の理由で「～切る」と共起しにくいと考えられる。

表3 「～切った」の許容度（母語話者順）

順位	V 1	日本語者	学習者	順位	V 1	日本語者	学習者	順位	V 1	日本語者	学習者	順位	V 1	日本語者	学習者
1	読む	100%	97%	26	計算する	75%	84%	51	祈る	38%	58%	76	楽しむ	12%	35%
2	食べる	100%	97%	27	作る	75%	90%	52	心配する	31%	45%	77	腹が減る	12%	42%
3	使う	100%	90%	28	攻める	74%	48%	53	諦める	31%	61%	78	生かす	12%	23%
4	泳ぐ	100%	58%	29	吸う	71%	84%	54	聞く	28%	74%	79	迷う	11%	32%
5	逃げる	100%	48%	30	思う	69%	81%	55	散る	28%	81%	80	暮らす	11%	23%
6	調べる	98%	90%	31	議論する	66%	71%	56	行く	28%	42%	81	どきどきする	6%	19%
7	売る	98%	100%	32	映く	66%	71%	57	憎む	28%	45%	82	住む	6%	45%
8	走る	95%	65%	33	我慢する	65%	32%	58	後悔する	26%	39%	83	聞こえる	6%	48%
9	登る	95%	65%	34	考える	63%	90%	59	待つ	26%	55%	84	喜ぶ	6%	13%
10	出す	95%	58%	35	治る	63%	65%	60	震える	23%	61%	85	飽きる	6%	74%
11	冷える	95%	52%	36	喉が渴く	63%	32%	61	怒る	23%	58%	86	笑う	5%	45%
12	言う	94%	100%	37	曲がる	62%	32%	62	覆う	23%	45%	87	存在する	5%	10%
13	守る	94%	52%	38	投げける	60%	71%	63	目覚める	22%	26%	88	知る	5%	23%
14	書く	92%	94%	39	安心する	58%	35%	64	眠る	20%	55%	89	望む	5%	45%
15	疲れる	92%	61%	40	頼る	58%	35%	65	失望する	20%	35%	90	驚く	3%	42%
16	見る	91%	74%	41	研究する	55%	81%	66	立つ	18%	48%	91	召し上がる	3%	55%
17	締める	91%	84%	42	語る	55%	87%	67	持つ	18%	45%	92	腹が立つ	3%	45%
18	歌う	89%	97%	43	埋める	54%	68%	68	惚れる	18%	55%	93	気になる	3%	29%
19	話す	88%	87%	44	腐る	51%	35%	69	寝る	17%	39%	94	来る	2%	32%
20	澄む	88%	45%	45	怯える	49%	35%	70	生活する	17%	19%	95	憧れる	2%	45%
21	描く	86%	74%	46	困る	49%	61%	71	がっかりする	17%	35%	96	気がつく	2%	26%
22	燃やす	82%	81%	47	泣く	48%	71%	72	疑う	15%	32%	97	居る	0%	19%
23	耐える	82%	61%	48	悩む	48%	68%	73	見える	15%	29%	98	おっしゃる	0%	48%
24	分かる	80%	32%	49	掘る	43%	94%	74	びっくりする	12%	13%	99	いらっしゃる	0%	29%
25	償じる	78%	42%	50	出る	40%	39%	75	願う	12%	42%	100	本が有る	0%	13%

### 5-3 「～尽くす」

最後に「～尽くす」の場合を見る。下の表4を見ると、「～尽くす」は「食べる」、「調べる」、「売る」のような外的運動動詞と共起する場合は許容度が高くなるが、「持つ」、「澄む」、「曲がる」と共起する場合は許容度が低くなる。「～尽くす」は「対象をなくす」という意味であり、「ケーキを食べ尽くした」は「私がケーキを食べた結果、ケーキがなくなった」状態を表すことができる。「\*夢を持ち尽くす」、「\*空が澄み尽くす」、「\*道が曲がり尽くす」が言えないのは対象を「なくす」という意味で解釈することができないためであると考えられる。さらに、「～尽くす」の前項動詞を見ると、人間の意志によってコントロールしやすい動詞が来やすいことが分かる。ただし、例外的に「出る」(73%)だけは、「意見が出尽くす」のような無意志の表現を取ることに注意したい。こ

れは「意見を出し尽くす」のような表現から派生してできた可能性がある。

また、思考動詞の場合は「知り尽くす」、「考え尽くす」の許容度は高いが、「信じ尽くす」、「分かり尽くす」の許容度は低くなる。同じ思考動詞である「知る」と「分かる」でも、「知り尽くした」は100%の許容度を示すのに対し、「分かり尽くした」は16%しか示さない。「～尽くす」は「対象をなくす」という意味であり、「知り尽くした」が言えるのは「情報を得た結果、知らない情報はなくなった」という解釈ができるためである。一方、「分かり尽くした」が言えないのは「～尽くす」には他動詞と共に起しやすい性質があるのに対し、「分かる」は自動詞であるためであると考えられる。また「少し知る」、「少し分かる」を比べると、「少し知る」は複数の知識の一部を獲得することを表すのに対し、「少し分かる」はある一つの知識のうちの一部を獲得する意味になる。「～尽くす」は個々の事態をひとつひとつ最後までやりとげることを表すため、複数の事態の達成を表す「知り尽くす」は言えるが、一つの事態の完成を表す「分かり尽くす」は言いにくいと考えられる。その理解の程度を「なくす」という意味解釈ができないため、「\*分かり尽くす」があまり言えない。「憧れ尽くした」、「気がつき尽くした」、「喜び尽くした」の許容度はそれぞれ5%、3%、2%のように全体的に許容度が低い。これも感情動詞の「憧れる」、「気がつく」、「喜ぶ」も同様に「対象をなくす」という意味で解釈することができないためであると考えられる。

表4 「～尽くした」の許容度（母語話者順）

順位	V1	日本語者	学習者	順位	V1	日本語者	学習者	順位	V1	日本語者	学習者	順位	V1	日本語者	学習者
1	食べる	100%	94%	26	歌う	72%	84%	51	眠る	28%	42%	76	諦める	13%	61%
2	知る	100%	42%	27	掘る	69%	87%	52	失望する	28%	35%	77	震える	13%	42%
3	調べる	98%	97%	28	悩む	66%	61%	53	楽しむ	28%	45%	78	持つ	13%	45%
4	売る	98%	74%	29	待つ	66%	65%	54	困る	27%	39%	79	望む	13%	68%
5	書く	97%	87%	30	守る	59%	58%	55	願う	27%	61%	80	澄む	11%	45%
6	使う	95%	94%	31	我慢する	58%	81%	56	安心する	25%	52%	81	曲がる	11%	32%
7	読む	94%	97%	32	泳ぐ	55%	71%	57	怒る	25%	48%	82	喉が渴く	9%	32%
8	言う	92%	87%	33	攻める	55%	58%	58	冷える	23%	30%	83	驚く	9%	26%
9	見る	91%	71%	34	覆う	53%	45%	59	信じる	23%	58%	84	来る	9%	32%
10	燃やす	91%	65%	35	登る	52%	77%	60	疑う	23%	39%	85	居る	6%	13%
11	語る	89%	81%	36	祈る	52%	61%	61	疲れる	22%	39%	86	生かす	5%	58%
12	話す	88%	90%	37	後悔する	52%	39%	62	がっかりする	22%	29%	87	暮らす	5%	26%
13	考える	88%	90%	38	寝る	48%	39%	63	住む	20%	39%	88	憶れる	5%	37%
14	埋める	88%	61%	39	散る	47%	58%	64	締める	19%	65%	89	聞こえる	3%	42%
15	出す	86%	52%	40	咲く	45%	52%	65	憶れる	19%	55%	90	召し上がる	3%	55%
16	吸う	86%	71%	41	投げる	44%	68%	66	治る	17%	65%	91	気になる	3%	23%
17	議論する	86%	68%	42	心配する	42%	45%	67	頼る	17%	52%	92	気がつく	3%	39%
18	研究する	86%	77%	43	行く	41%	42%	68	びっくりする	17%	23%	93	おっしゃる	3%	55%
19	泣く	86%	81%	44	逃げる	34%	52%	69	腹が減る	17%	35%	94	目覚める	2%	29%
20	計算する	84%	71%	45	耐える	34%	77%	70	分かる	16%	42%	95	生活する	2%	26%
21	立つ	77%	48%	46	憎む	33%	55%	71	迷う	16%	16%	96	喜ぶ	2%	42%
22	走る	75%	87%	47	作る	31%	74%	72	ときどきする	16%	26%	97	存在する	2%	10%
23	聞く	75%	81%	48	思う	31%	74%	73	飽きる	14%	48%	98	見える	0%	19%
24	描く	73%	74%	49	笑う	31%	32%	74	腹が立つ	14%	32%	99	いらっしゃる	0%	26%
25	出る	73%	29%	50	腐る	30%	35%	75	怯える	13%	39%	100	本が有る	0%	26%

## 6 学習者の使い分け意識

### 6-1 「～終わる」

それでは、日本語学習者は日本語母語話者と同様に「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」を使い分けているのであろうか。そこで今度は前項動詞を日本語学習者の許容度が高いものから順に並べ替えてみた。その結果を表5、6、7に示す。次に学習者の使い分けの意識について分析してみる。

まず、下の表5を見ると、日本語学習者も日本語母語話者と同じように、「～終わる」は「読む」、「言う」、「使う」などの外的運動動詞と共起する場合に許容度が高くなる。「散る」、「咲く」の場合は母語話者より高い許容度を示してい

る。この理由は、終了を表す「～終わる」は中国語の動作・作用の終結を表す“完”と類似している表現であるため、“花谢完”，“花开完”が言えるのと同様に学習者は「花が散り終わる」、「花が咲き終わる」も言えると理解している。つまり、学習者は「～終わる」は中国語の“完”に当たる表現だと考えているようである。また、「～終わる」は「考える」、「祈る」などの思考動詞と共に起る場合に許容度が高くなる。一方、「思う」、「知る」、「分かる」、「信じる」の場合は許容度が低くなる。日本語学習者の許容度は日本語母語話者よりやや高い傾向を示しているが、母語話者と類似した傾向が見られる。ただし、学習者が「思い終わった」は53%の許容度を示すのに対し、母語話者は8%しか示さない。このことから、学習者は思考動詞「思う」と「考える」、「祈る」の違いについて十分理解していないことが分かる。

表5 「～終わった」の許容度（学習者順）

順位	V1	学習者	日語話者	順位	V1	学習者	日語話者	順位	V1	学習者	日語話者	順位	V1	学習者	日語話者
1	読む	97%	100%	26	議論する	78%	92%	51	立つ	44%	10%	76	喉が渴く	28%	2%
2	言う	97%	98%	27	投げる	78%	84%	52	迷う	41%	10%	77	見える	28%	2%
3	使う	97%	97%	28	召し上がる	75%	5%	53	望む	41%	0%	78	がっかりする	25%	8%
4	話す	94%	98%	29	登る	72%	86%	54	住む	38%	21%	79	喜ぶ	25%	6%
5	書く	94%	97%	30	埋める	72%	84%	55	持つ	38%	10%	80	腹が減る	25%	5%
6	調べる	94%	95%	31	震える	72%	29%	56	頼る	38%	2%	81	気がつく	25%	3%
7	歌う	94%	95%	32	おっしゃる	72%	2%	57	どきどきする	34%	30%	82	気になる	25%	0%
8	作る	94%	95%	33	攻める	69%	37%	58	行く	34%	27%	83	願う	22%	19%
9	描く	94%	89%	34	祈る	63%	76%	59	寝る	34%	21%	84	楽しむ	22%	17%
10	食べる	91%	100%	35	待つ	63%	19%	60	怯える	34%	14%	85	居る	22%	8%
11	計算する	91%	100%	36	悩む	59%	37%	61	聞こえる	34%	11%	86	腐る	19%	3%
12	聞く	91%	90%	37	守る	59%	37%	62	困る	34%	5%	87	生かす	16%	0%
13	吸う	91%	87%	38	耐える	59%	25%	63	腹が立つ	34%	3%	88	いらっしゃる	16%	0%
14	研究する	88%	94%	39	怒る	56%	22%	64	懂れる	34%	3%	89	後悔する	13%	27%
15	走る	88%	94%	40	治る	56%	13%	65	我慢する	31%	40%	90	生活する	13%	10%
16	泳ぐ	88%	84%	41	出す	53%	75%	66	出る	31%	21%	91	来る	13%	6%
17	売る	88%	76%	42	逃げる	53%	43%	67	憎む	31%	13%	92	存在する	13%	6%
18	語る	88%	75%	43	締める	53%	43%	68	諦める	31%	6%	93	安心する	13%	5%
19	泣く	84%	75%	44	覆う	53%	16%	69	驚く	31%	6%	94	目覚める	13%	0%
20	散る	84%	49%	45	思う	53%	8%	70	澄む	31%	5%	95	本が有る	13%	0%
21	考える	81%	79%	46	惚れる	53%	6%	71	心配する	28%	27%	96	知る	9%	3%
22	掘る	81%	79%	47	笑う	50%	30%	72	冷える	28%	11%	97	失望する	9%	3%
23	燃やす	81%	68%	48	曲がる	44%	25%	73	暮らす	28%	10%	98	分かる	9%	0%
24	咲く	81%	57%	49	眠る	44%	14%	74	疲れる	28%	5%	99	びっくりする	6%	24%
25	見る	78%	98%	50	疑う	44%	14%	75	飽きる	28%	3%	100	信じる	6%	8%

## 6-2 「～切る」

次に、表6の「～切る」について考えると、学習者は「言い切った」、「売り切った」、「読み切った」には95%以上の許容度を示し、母語話者と同じ傾向を示した。しかし、「疲れ切った」、「信じ切った」、「分かり切った」の許容度はそれぞれ61%、42%、32%と、母語話者の92%、78%、80%に比べてかなり低いという結果が出た。一方、「飽き切った」の許容度は、母語話者の場合は6%のみであるのに対し、学習者は74%の高い割合で言えると判断している。「飽きる」はある状況に瞬間的に心の動きが変化したものである。「～切る」は「ある行為や変化の限界」という意味であり、限界に達するまでの時間的長さが必要であるため、「飽きる」と共起しにくい。学習者はこの点についての理解に至っていないためであると考えられる。

表6 「～切った」の許容度（学習者順）

順位	V1	学習者	日語話者	順位	V1	学習者	日語話者	順位	V1	学習者	日語話者	順位	V1	学習者	日語話者
1	言う	100%	94%	26	咲く	71%	66%	51	逃げる	48%	100%	76	腐る	35%	51%
2	売る	100%	98%	27	議論する	71%	66%	52	立つ	48%	18%	77	安心する	35%	58%
3	読む	97%	100%	28	投げける	71%	60%	53	聞こえる	48%	6%	78	失望する	35%	20%
4	歌う	97%	89%	29	埋める	68%	54%	54	覆う	45%	23%	79	曲がる	32%	62%
5	食べる	97%	100%	30	悩む	68%	48%	55	笑う	45%	5%	80	疑う	32%	15%
6	書く	94%	92%	31	走る	65%	95%	56	望む	45%	5%	81	迷う	32%	11%
7	掘る	94%	43%	32	登る	65%	95%	57	住む	45%	6%	82	我慢する	32%	65%
8	使う	90%	100%	33	治る	65%	63%	58	持つ	45%	18%	83	喉が渴く	32%	63%
9	調べる	90%	98%	34	震える	61%	23%	59	腹が立つ	45%	3%	84	来る	32%	2%
10	作る	90%	75%	35	耐える	61%	82%	60	憧れる	45%	2%	85	分かる	32%	80%
11	考える	90%	63%	36	困る	61%	49%	61	憎む	45%	28%	86	見える	29%	15%
12	話す	87%	88%	37	諦める	61%	31%	62	澄む	45%	88%	87	気になる	29%	3%
13	語る	87%	55%	38	疲れる	61%	92%	63	心配する	45%	31%	88	いらっしやる	29%	0%
14	計算する	84%	75%	39	泳ぐ	58%	100%	64	行く	42%	28%	89	気がつく	26%	2%
15	吸う	84%	71%	40	祈る	58%	38%	65	驚く	42%	3%	90	目覚める	26%	22%
16	締める	84%	91%	41	怒る	58%	23%	66	腹が減る	42%	12%	91	暮らす	23%	11%
17	研究する	81%	55%	42	出す	58%	95%	67	願う	42%	12%	92	生かす	23%	12%
18	散る	81%	28%	43	召し上がる	55%	3%	68	信じる	42%	78%	93	知る	23%	5%
19	燃やす	81%	82%	44	待つ	55%	26%	69	寝る	39%	17%	94	どきどきする	19%	6%
20	思う	81%	69%	45	惚れる	55%	18%	70	出る	39%	40%	95	居る	19%	0%
21	描く	74%	86%	46	眠る	55%	20%	71	後悔する	39%	26%	96	生活する	19%	17%
22	聞く	74%	28%	47	守る	52%	94%	72	頼る	35%	58%	97	喜ぶ	13%	6%
23	見る	74%	91%	48	冷える	52%	95%	73	怯える	35%	49%	98	本が有る	13%	0%
24	飽きる	74%	6%	49	おっしゃる	48%	0%	74	がっかりする	35%	17%	99	びっくりする	13%	12%
25	泣く	71%	48%	50	攻める	48%	74%	75	楽しむ	35%	12%	100	存在する	10%	5%

### 6-3 「～尽くす」

最後に「～尽くす」の場合を見る。表7を見ると、学習者は「我慢し尽くした」、「耐え尽くした」、「思い尽くした」の許容度はそれぞれ81%、77%、74%であり、母語話者の58%、34%、31%に比べてかなり高いという結果が出た。また、学習者の「出し尽くした」、「出尽くした」の許容度は52%、29%であり、母語話者の86%、73%に比べてかなり低い。「V1+尽くす」には「対象をなくす」という意味が含意されているため、「力を出し尽くした」(力を出した結果、力がなくなった)、「意見が出尽くした」(それ以上の意見はなくなる)のように言える。実際母語話者のアンケート調査からみて、母語話者もこの基準で判断していることが分かるが、この点について学習者の理解はまだ不十分であると言える。学習者の場合に「出尽くす」の許容度が低くなるのは、「～尽くす」は一般的に人間の意志によってコントロールしやすい動詞につくため、無意志の自動詞「出る」は「出尽くす」のように言うことができないと判断されるためであると考えられる。従って、コントロール可能な「出し尽くす」よりも許容度が上がる。

表7 「～尽くした」の許容度（学習者順）

順位	V 1	学習者	日語話者	順位	V 1	学習者	日語話者	順位	V 1	学習者	日語話者	順位	V 1	学習者	日語話者
1	読む	97%	94%	26	泳ぐ	71%	55%	51	頼る	52%	17%	76	憧れる	37%	5%
2	調べる	97%	98%	27	議論する	68%	86%	52	安心する	52%	25%	77	腹が減る	35%	17%
3	食べる	94%	100%	28	投げる	68%	44%	53	飽きる	48%	14%	78	腐る	35%	30%
4	使う	94%	95%	29	望む	68%	13%	54	怒る	48%	25%	79	失望する	35%	28%
5	考える	90%	88%	30	締める	65%	19%	55	<b>立つ</b>	<b>48%</b>	<b>77%</b>	80	笑う	32%	31%
6	話す	90%	88%	31	燃やす	65%	91%	56	覆う	45%	53%	81	腹が立つ	32%	14%
7	言う	87%	92%	32	治る	65%	17%	57	持つ	45%	13%	82	曲がる	32%	11%
8	書く	87%	97%	33	待つ	65%	66%	58	澄む	45%	11%	83	喉が渴く	32%	9%
9	掘る	87%	69%	34	埋める	61%	88%	59	心配する	45%	42%	84	来る	32%	9%
10	走る	87%	75%	35	悩む	61%	66%	60	楽しむ	45%	28%	85	冷える	30%	23%
11	歌う	84%	72%	36	諦める	61%	13%	61	震える	42%	13%	86	<b>出る</b>	<b>29%</b>	<b>73%</b>
12	語る	81%	89%	37	祈る	61%	52%	62	眠る	42%	28%	87	がっかりする	29%	22%
13	聞く	81%	75%	38	願う	61%	27%	63	聞こえる	42%	3%	88	目覚める	29%	2%
14	泣く	81%	86%	39	散る	58%	47%	64	行く	42%	41%	89	驚く	26%	9%
15	<b>我慢する</b>	<b>81%</b>	<b>58%</b>	40	守る	58%	59%	65	分かる	42%	16%	90	いらっしゃる	26%	0%
16	研究する	77%	86%	41	攻める	58%	55%	66	知る	42%	100%	91	暮らす	26%	5%
17	登る	77%	52%	42	信じる	58%	23%	67	喜ぶ	42%	2%	92	ときどきする	26%	16%
18	<b>耐える</b>	<b>77%</b>	<b>34%</b>	43	生かす	58%	5%	68	困る	39%	27%	93	生活する	26%	2%
19	売る	74%	98%	44	召し上がる	55%	3%	69	疲れる	39%	22%	94	本がある	26%	0%
20	作る	74%	31%	45	惚れる	55%	19%	70	住む	39%	20%	95	気になる	23%	3%
21	<b>思う</b>	<b>74%</b>	<b>31%</b>	46	おっしゃる	55%	3%	71	寝る	39%	48%	96	びっくりする	23%	17%
22	描く	74%	73%	47	憎む	55%	33%	72	後悔する	39%	52%	97	見える	19%	0%
23	計算する	71%	84%	48	映く	52%	45%	73	怯える	39%	13%	98	迷う	16%	16%
24	吸う	71%	86%	49	<b>出す</b>	<b>52%</b>	<b>86%</b>	74	疑う	39%	23%	99	居る	13%	6%
25	見る	71%	91%	50	逃げる	52%	34%	75	気がつく	39%	3%	100	存在する	10%	2%

#### 6-4 日本人との比較

次に動詞と「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」との関係を見る。表8を見ると、母語話者も学習者と同じように、「読む」、「食べる」、「書く」のいずれも「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」と共起しやすい。一方、「治る」、「澄む」、「曲がる」は「～切る」との許容度が母語話者において高く、学習者の場合は「読む」、「食べる」より低い許容度を示しているが、全体的に「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」との許容度は高い。また、母語話者は「眠る」、「持つ」のいずれも「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」との許容度は低い、学習者の許容度は母語話者より全体的に高い傾向が見られる。学習者の「～終わる」の許容度の傾向は、母語話者の「～終わる」と似た様相を呈している。しかし、「～切る」、「～尽くす」の場合は母語話者と違った傾向が見られる。特に、学習者

の「～切る」、「～尽くす」には類似した現象が観察される。

表8 「外的運動動詞」

V 1	～終わる		～切る		～尽くす	
	日本人	学習者	日本人	学習者	日本人	学習者
読む	100%	97%	100%	97%	94%	97%
食べる	100%	91%	100%	97%	100%	94%
書く	97%	94%	92%	94%	97%	87%
治る	13%	<b>56%</b>	63%	<b>65%</b>	17%	<b>65%</b>
澄む	5%	<b>31%</b>	88%	<b>45%</b>	11%	<b>45%</b>
曲がる	25%	<b>44%</b>	62%	<b>32%</b>	11%	<b>32%</b>
眠る	<b>14%</b>	44%	<b>20%</b>	55%	<b>28%</b>	42%
持つ	<b>10%</b>	38%	<b>18%</b>	45%	<b>13%</b>	45%

次に、表9の思考動詞「知る」、「分かる」に着目すると、母語話者は「知り尽くした」、「分かり切った」について80%以上の許容度を示したのに対し、学習者の許容度は全体的に低い。中国語の“知道”は対象について、一定の情報や知識を持っていることを表す。“明白”は真相が明らかになることである。情報をまだ得ていないときは、“他还不知道”（彼はまだ知らない）であり、何らか情報を得たとき“知道了”（分かりました）と言う。一方、疑問に思っていたことが理解できたときには“明白了”（分かりました）と言う。“知道”がいずれの場合においても日本語の「知る」、「分かる」の意に解釈できる点からみて、学習者は思考動詞の「知る」、「分かる」を“知道”と同じ性質であると考えていることが分かる。

表9 「思考動詞」

V 1	～終わる		～切る		～尽くす	
	日本人	学習者	日本人	学習者	日本人	学習者
考える	79%	81%	63%	90%	88%	90%
祈る	76%	63%	38%	58%	52%	61%
思う	8%	53%	69%	81%	31%	74%
信じる	8%	6%	78%	43%	23%	58%
知る	3%	9%	5%	23%	<b>100%</b>	<b>42%</b>
分かる	0%	9%	<b>80%</b>	<b>32%</b>	16%	42%

また、表10を見ると、感情動詞の場合、学習者の許容度は全体的に母語話者より高い許容度を示している。学習者は「諦め終わった」、「諦め切った」、「諦め尽くした」についてそれぞれ31%、61%、61%の許容度を示すのに対し、母語話者はそれぞれ6%、31%、13%の許容度を示した。特に、「諦め尽くした」は母語話者よりかなり高い許容度を示している。これに対し、同じ感情動詞「飽きる」でも、「飽き切った」の許容度は母語話者6%の割合で言えると判断され、学習者は74%の高い割合で言えると判断した。

このように、同じ感情動詞でも行為の極限を表す「～切る」や個々の事態の達成を表す「～尽くす」との結合の許容度は学習者においては一様ではない。今後さらに検討する必要があると思われる。

表10 「感情動詞」

V 1	～終わる		～切る		～尽くす	
	日本人	学習者	日本人	学習者	日本人	学習者
楽しむ	17%	22%	12%	35%	28%	45%
悩む	37%	59%	48%	68%	66%	61%
心配する	27%	28%	31%	45%	42%	45%
<b>諦める</b>	<b>6%</b>	<b>31%</b>	<b>31%</b>	<b>61%</b>	<b>13%</b>	<b>61%</b>
困る	5%	34%	49%	61%	27%	39%
驚く	6%	31%	3%	42%	9%	26%
喜ぶ	6%	25%	6%	13%	2%	42%
<b>飽きる</b>	<b>3%</b>	<b>28%</b>	<b>6%</b>	<b>74%</b>	<b>14%</b>	<b>48%</b>
懂れる	3%	34%	2%	45%	5%	37%

敬語動詞の場合、「召し上がる」、「おっしゃる」は全体的に「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」との許容度が母語話者においては低い。学習者の場合は確かに「食べる」、「言う」より低い許容度を示しているが、全体的に母語話者より高い許容度を示している。

表11 「敬語動詞」

V 1	～終わる		～切る		～尽くす	
	日本人	学習者	日本人	学習者	日本人	学習者
食べる	100%	91%	100%	97%	100%	94%
言う	98%	97%	94%	100%	92%	87%
召し上がる	5%	75%	3%	55%	3%	55%
おっしゃる	2%	72%	0%	48%	3%	55%

## 7. まとめ

以上、本研究では「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」を対象に、前項動詞の特徴について分析した。その結果、外的運動動詞の「読む／食べる／言う」は3つの後項動詞と共起しやすいが、時間の展開がない静態動詞「本が有る／居る／存在する」は3つの後項動詞と共起しにくいことを明らかにした。また、思考動詞の場合は、「祈る」は「～終わる」と共起しやすいのに対して、「思う／分かる／信じる」は「～切る」と共起しやすく、「知る」は「～尽くす」と共起しやすい。感情動詞の場合は全体的に「～終わる」と共起しにくい、「諦める／困る」は「～切る」と共起しやすいことが分かる。

また、母語話者と学習者の許容度の違いを比較して、学習者の使い分けの違いを明らかにした。その結果、母語話者は「分かり尽くした」、「知り切った」と言わずに、「知り尽くした」、「分かり切った」と言うのが普通である。それに対して、学習者は「分かり尽くした」、「知り切った」のいずれも言えると判断していることが分かる。以上のように日本語母語話者と日本語学習者の使い分けの違いを分析することによって、日本語学習者の言語使用の法則を導き出し、日本語教育に生かすことができると考えられる。

## 注

- 1) 『日本語基本動詞用法辞典』には728の項目がある。ただし、の中には「生長する／成長する」のように表記の異なるものを1つの項目とみなしているものもある。本研究ではそれぞれの表記は別々の語として数え、839語を検索した。さらに、筆者の関心によって44語の内的情態動詞を追加

し、合わせて883語の動詞を検索した。

- 2) 本研究で扱った100語の動詞は工藤(1995)の動詞分類に従って分類して選定した。工藤(1995:45)は、「スル」－「シテイル」の対立がある動詞を「外的運動動詞」、「スル」－「シテイル」の対立がない動詞を「静態動詞」とし、さらに<思考・感情・知覚・感覚>など人の内的事象をとらえている動詞は、「スル」と「シテイル」の対立があるが、継続性の有無だけで対立しているのではないことから、アスペクト対立が部分的に変容した「内的情態動詞」として分類している。

## 参考文献

- 小泉保・船城道雄・本田 治・仁田義雄・塚本秀樹(1989)『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト－現代日本語の時間の表現－』ひつじ書房
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 杉村泰(2005)「文の正しさとは何か」『日本語学』9月号、明治書院、pp.56－64
- 杉村泰(2008)「複合動詞「一切る」の意味について」『言語文化研究叢書』7、名古屋大学国際言語文化研究科、pp.63－79
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 田忠魁・泉原省二・金相順(1998)『日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する類義語使い分け辞典』研究社
- 姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店
- 廖紋淑(2005)「局面動詞「～始める」、「～続ける」、「～終わる／～終える」と内的情態動詞との共起関係についての記述的研究」『ことばの科学』18、名古屋大学言語文化研究会、pp.63－87
- 廖紋淑(2007)「内的情態動詞「感情動詞」のアスペクト－「～始める」、「～続ける」、「～終わる」との共起から－」『2007年日語教学国際会議論文集』、東呉大学日本語文学系、pp.438－451
- 由本陽子(2005)『複合動詞・派生動詞の意味と統合－モジュール形態論か見た日英語の動詞形成－』ひつじ書房